2023 年 7 月
HBS Japan Trek 2023 幹事一同

Harvard Business School Japan Trek 2023 終了のご報告

時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。去る 5 月 27 日（土）を持ちまして、ご協賛賜りました Harvard Business School (HBS) Japan トレック 2023 の全日程を無事終了いたしました。本トレックの企画・実施にあたり、協賛企業・HBS アルムナイの皆様をはじめ、大変多くの方のご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響により、海外渡航者の受け入れが 10 月まで制限されていたため、昨年度は 12 月にプログラムを実施致しましたが、本年度は海外渡航者の全面受け入れ開始に伴い、コロナ禍前と同様に 5 月に実施いたしました。5 月上旬に実施された FIELD Global Immersion (FGI)にて皆各国に渡航した直後、かつ夏季インターン直前という難しい時期にも関わらず、総勢 52 名の学生が参加するトレックとなりました。計 8 日間の行程の中で、全員で東京、京都、広島を巡り、一部有志は大阪と奈良にも足を運びました。過去トレックのフィードバックを踏まえて、日本文化を知るための観光・文化体験を中心に、広島での平和学習、企業見学や各方面でご活躍されるアラムナイの方々を招いたラウンドテーブルも実施致しました。

ご支援いただいた皆様への感謝を胸に、本トレックの内容をご共有するべく活動報告書を取り纏めさせていただきました。ご覧いただけますと幸いでございます。

【全体スケジュール】

5/19（金）- Day 1

- Welcome Reception Party （品川プリンスホテル）

5/20（土）- Day 2

- 東京スカイツリー・浅草寺観光
- 天ぷらランチ（浅草）
- 原宿・表参道・明治神宮・渋谷観光
- 屋形船ディナー（晴海）

5/21（日）- Day 3

- 新幹線で京都に移動
- 京都観光（清水寺、金閣寺）
- オプショナルディナー（京懐石、豆腐懐石、鰻料理）

5/22（月）- Day 4

- オプショナルアクティビティ
  - ○ 京都（着物試着、和菓子作り、酒蔵訪問、温泉体験）
  - ○ 大阪（FOOD & LIFE COMPANIES 訪問、大阪城観光、お好み焼き・串カツディナー）
  - ○ 奈良（奈良公園・東大寺観光、茶道体験、利酒体験、嵐山観光）
- 懐石ディナー

5/23（火）- Day 5

- 新幹線で広島に移動
- 宮島・厳島神社観光
- 日本式大宴会（安芸グランドホテル）

5/24（水）- Day 6

- 広島平和記念資料館で被爆体験伝承者の講話を聴講
- 広島平和記念資料館・平和記念公園・原爆ドーム見学
- お好み焼きランチ

5/25（木）- Day 7

- オプショナルアクティビティ
  - ○ 相撲観戦、銀座観光
  - ○ チームラボプラネッツ、歌舞伎座ギャラリー、松竹本社訪問
  - ○ 豊洲市場マグロにてセリ見学

5/26（金）- Day 8

- カンファレンスイベント（Sproud 品川インターシティ）

  <u>主な内容</u>
  - ○ ゲストスピーカーを交えたパネルディスカッション
    - ■ Digitalization and AI in Japan
      津坂 美樹様（CEO, Microsoft Japan, HBS Class of 1988）
    - ■ Japan’s Startup Landscape
      南場 智子様（Chairman, DeNA, HBS Class of 1990）
    - ■ Tech and Investing in Japan
      谷田川 英治様（Partner, KKR Japan）
      倉林 陽様（Japan Head, DNX Ventures）
    - ■ Business and Government
      向山 淳様（HKS MPA 2019）
  - ○ アルムナイの方々と Trek 参加者の懇親会

【活動詳細】

5/19（金）- Day 1@東京

HBS での 1 年目の最終試験終了後に実施される、FGI(Field Global Immersion)と言われる必須の海外コンサルプロジェクトに参加したのち、世界中の FGI 派遣先(遠くは南米)から 52 名(うち幹事団 8 名)の HBS 生が期待に旨を膨らませ東京の品川プリンスホテルに集合いたしました。日本訪問が初めての学生も多く、特に成田空港を利用した学生は多少空港からのアクセスに苦戦していたようですが、鉄道会社職員の方の親切なガイダンスのおかげで全員が時間通りホテルに到着することができました。ボストンの MBTA Subway では期待できない鉄道会社職員の丁寧な対応や清潔感のある駅に驚いていた学生も多くいました。ホテル集合後に行われたオープニングイベントでは幹事団からのあいさつの後、軽食を取りながら学生同士各国での FGI での体験や、トレックへの期待について歓談しました。

5/20（土）- Day 2@東京

本日からトレックが本格的に始まりました。まずはホテルからバスで東京の街並みを楽しみながら東京スカイツリーに向かいました。展望台からの眺めは生憎の曇り模様でしたが、クラスメイトは地震大国の日本にて高層建築が立ち並ぶる様子を見て驚きの声が上がっていました。その後浅草仲見世通りを散策し、折よく浅草寺にて行われていた三社祭を見学しました。学生達は初めて見る神輿の熱気と人混みに圧倒されていました。疲れをとるかのようにその後天ぷらを楽しみました。昼食後、週末の買い物客・観光客で溢れかえる竹下通を見て回り、各自明治神宮や表参道、渋谷等を散策しました。渋谷スクランブル交差点は世界一人通りの多い交差点として海外でも写真などで目にする機会が多いですが、実際に本物の交差点を訪れ、予想以上の人通りと、目に飛び込んでくる広告の情報量に驚き、青信号になっても渡るのに躊躇していた学生も見られました。夕方は東京湾を周遊する屋形船に乗りました。海鮮料理、しゃぶしゃぶ、天ぷらなどが提供されるなか多くの参加者は初めての食材に挑戦していました。東京スカイツリー等日本の夜景を屋形船の展望台から大いに楽しみ、トレック初日を終えました。

5/21（日）- Day 3@京都

早朝より新幹線で東京から京都へ移動しました。HBS の RC の授業"Technology & Operations Management"(通称 TOM）では「JR 東日本テクノハート TESSEI」を扱った必修授業があり、新幹線に乗ることを楽しみにしている参加者が多くいました。実際にホームにて清掃員の方を見かけ、社内でも快適な時間を過ごし、新幹線の先進性を体験できて皆喜んでいました。正午前に京都に到着し、、清水寺・鹿苑寺（金閣）を参拝しました。中でも、清水寺本堂の釘を用いない懸造り、金閣の絢爛さや庭園の緻密さが印象に残ったようでした。また、「清水の舞台から飛び降りる」との諺の由来に皆興味津々で、景色を見ながら色々な説を眼で見て検証していました。夜は小グループに分かれ、京割烹、湯葉料理、鰻料理等をそれぞれ堪能しました。

5/22（月）- Day 4@京都・大阪・奈良

- 京都（着物試着、和菓子作り、酒蔵訪問、温泉体験）

京都のオプショナルツアーには 19 名が参加し、鮮やかな着物をレンタルして八坂神社を散策しました。晴天と綺麗な景色のもと、写真撮影を満喫しました。地元の和菓子店では伝統的なみたらし団子を味わい、参加者は馴染みがあまり無い、きな粉などの様々な食材を試して楽しみました。昼食の後、「湯の宿　松栄」の温泉に向かいました。多くの参加者にとって、今回が初めての温泉体験の中、日本の独特な入浴習慣に最初は戸惑意を示す参加者もおりましたが、サウナのテレビでの相撲鑑賞や、入浴後の牛乳など、日本らしい温泉体験ができ、大変思い出深い体験となりました。最後は懐石料理店にて様々な豆腐の食材を頂きました。皆最初は物珍しそうに豆腐の食材を観察しておりましたが、最後は全て美味しいと喜んで食べて頂きました。

- 大阪（（株）FOOD & LIFE COMPANIES 訪問、大阪観光）

関西 2 日目、15 人強の参加者とともに大阪に向かいました。回転寿司「スシロー」、「京樽」ブランドで知られる（株）FOOD & LIFE COMPANIES を訪問し、 海外事業担当 兼 海外事業部長 田中洋祐さんに事業紹介をしていただきました。ご存じのように、スシローは低価格高品質の回転寿司として知られています。どのように鮮魚のグローバルサプライチェーン管理を行っているか、店舗におけるタッチパネルの導入・機械をどのように取り入れているか等、スシローのオペレーションの裏側を知ることができ、一同終始関心いたしました。RC の授業"Technology & Operations Management" (通称 TOM）では、「ベニハナ」「トヨタ自動車」「JR 東日本テクノハート TESSEI」のケースを学びます。そのため、日本のオペレーションは効率が良いという印象は皆事前に持っていました。細かな取組を知り、「ここまでテクノロジーを上手く取り入れて回転寿司チェーンを経営するなんて、本当に日本らしいね」等、皆口をそろえて驚いておりました。一方、「安価に大量に寿司を売ることは減少する漁獲量をさらに加速してしまうのではないか」と、環境保全に対する影響に鑑み、現状のビジネスを懸念する声も上がりました。「安価なのはむしろ有難い」と思っていたため、「確かにその通りだ」と思いどのような回答を得られるか内心ハラハラしましたが、「天然魚に頼らず、養殖魚の育成に力を入れている」との説明を伺い、納得の取組に一同腹落ちした様子でした。店舗では実際にタッチパネルを使用しながら注文をし、大変美味しく食事をしました。その後訪れた大阪城ではカロリーを消費するかのように、階段で天守閣を上りました。さらにカロリーを消化すべく「戦国、安土桃山…」と日本史の知識を頭の奥底から引き出し、豊臣秀吉の時代について説明しました。そんなときに見える大阪市内の景色は格別で、心身ともに充実した 1 日となりました。

- 奈良（奈良公園・東大寺観光、茶道体験、利酒体験、嵐山観光）

本トレックで新たに追加された奈良のツアーでしたが、参加者は 15 名と大所帯となりました。特に奈良の大仏や奈良公園の鹿等に関心を持っている学生が多かったです。今回は、東大寺拝観、奈良公園・嵐山観光等と合わせ東大寺周辺の施設で茶道体験や利酒体験を実施しました。奈良公園では興福寺や国宝博物館を訪問し、国宝博物館では学芸員の方から千手観音像についての詳しい説明を伺い、皆熱心に聞き入っていました。HBS 生の知識欲の旺盛さを再認識しました。鹿への餌やりに興味を持っていた学生は、鹿から大歓迎を受け非常に満足していました。何人かの学生は、観光客には餌をせびる鹿が、餌を売っている売店の方には近づかないことに気づきました。その理由について東大寺への道中議論が弾み、これもまたなんとも HBS らしく、引率していて非常に興味深く感じました。東大寺や南大門についてはその規模や建築

の素晴らしさもさることながら、古く脆い建築物が大切に保存されていることに感銘を受けた様子の学生が多かったです。午後の茶道体験では、茶道の指導員の方から日本の茶道文化に関して解説していただき、全員で点茶を体験しました。「日本の茶道文化は亭主と主客の対話という精神性を重視してきたため、中国や西洋にて見られたような道具や茶菓子の発展はなかった」という点は HBS の学生にとってはもちろん、日本人の我々にとっても新鮮な視点で勉強になりました。茶道体験のあとは、利酒体験と嵐山観光に分かれ、いずれに参加した学生も大変満足し、大好評のオプショナルツアーを終えることができました。

5/23（火）- Day 5@広島

広島初日は正午過ぎに広島駅到着後、バスで移動をしながらお弁当を食べ宮島に向かいました。ガイドさんが宮島にある文化遺産の説明や、伊藤博文氏のゆかりのあるもみじ饅頭のお話などで車内を盛り上げてくれました。フェリーに乗り、宮島に着くと学生たちは自由行動に入り、厳島神社の鳥居や干潮を写真に残したり、島の鹿と戯れたり、島の展望台をロープウェイ・ハイキングで訪れたり、民族歴史館に行ったりと各自楽しんでいました。

その晩は、安芸グランドホテルの大広間で、浴衣を羽織りながら宴会を開催しました。学生たちはホテルに用意いただいた酒樽を割り、各自、ジャパントレック幹事団にて作成した HBS 特製枡でお酒を注ぐ等し、日本の宴会ならではの体験を新鮮に受け止めてくれました。また食事が終わり、4 つのチームに分かれて順番に日本に関してのトリビアクイズ、叩いてかぶってジャンケンポン、二人羽織などの宴会芸で競い、最後はカラオケにて夜を締めくくりました。

イベントが盛りだくさんだった一日であるにもかかわらず、多くの人が最後まで宴会に残り、楽しい時間を過ごしていました。日本に関してのトリビアクイズを通して日本の歴史や文化に興味を持ってくれたこと、また日本特有のパーティである宴会に関しては「これをアメリカでやれないか。」といった声が聞かれたことなど、企画を満喫してくれたことに喜びを感じた一時となりました。

5/24（水）- Day 6@広島

広島 2 日目は、原爆ドームを訪問しました。直前に G7 サミットが実施されており、ちょうど街中の飾りを取り外しているタイミングでもありました。ニュースにて各国首脳が原爆ドームを訪れている様子を目にしていたためか、皆いよいよここに行くのかと朝から心の準備をしていました。到着後、被爆伝承者の山岡美知子さんの講和を伺いました。原爆投下当時の悲惨さ、そして被爆後遺症の恐ろしさを心を痛めながら拝聴しました。山岡さんは彼女のお母様から受け継いだ話を英語話者向けに語り継いでいらっしゃり、アメリカの大学でも講演されたことがあります。講和後、「英語は全く話せなかったが何度も練習して今はもう 30 分の講和をすべて暗唱できる。プレゼンテーションをするたびに改善を重ねている」とご本人より伺い彼女の努力に心底感嘆しました。また、語り部の方の素晴らしい努力のお陰で非日本語話者にも話を語り継げることに深く感謝いたしました。

講和の後、参加者の学生からは「『戦争を憎んで人を憎まず』と度々聞くが、第二次世界大戦後、日本人はアメリカ人を本当に憎んでいなかったのか」等の質問を受けました。「それは確かにそうである」と即答できたものの、久しく考えていなかったせいか、少し沈黙が走ってしまいました。歴史を語り継ぐこととは、単に事実を語り継ぐだけではなく、当時の感覚に立ち返り、過去の価値観や感覚といった記憶を引き継ぐことでもあります。日々淡々と生きる中で、情報過多な 2023 年の感覚に基づいて歴史を振り返ってしまい、過去の記憶を蔑ろにしてしまっていることに気づきました。

HBS にて日々耳にする empathy とは、単に自分が対峙している現在目の前にいる他人に対してだけでなく、過去そして未来の人に対しての思いやりでもあるとのことをふと実感しました。そんなことを思いながら、平和を願う気持ちを深めた一日でした。

5/25（木）- Day 7@東京

- 相撲観戦、銀座観光

参加者に残り少ない日本滞在を最大限に満喫してもらうために、幹事で音頭を取り東京オプショナルツアーを実施いたしました。相撲観戦を主軸においた本ツアーは計 16 名で催行しました。昼食は参加者の好みに合わせて二手に分かれ、トンカツ、寿司を堪能しました。その後、皆で銀座にて「銀ブラ」をしました。ITOYA や鳩居堂で繊細に作られた文房具や小物を見て皆楽しんでいました。また、米国でも人気の UNIQLO の旗艦店、豪華なスターバックス・蔦屋書店を訪れ、日米間のブランディングの違いに驚く人も多くいました。買い物の後は、銀座三越「アートアクアリウム美術館 GINZA」にて、金魚と紫陽花をコンセプトにした近代的な展示を鑑賞いたしました。

銀座散策後、夕方の幕内・横綱土俵入りに間に合うべく両国の国技館まで移動。丁度五月場所開催中ということもあり、会場は地元の方々・国内外の観光客で大変賑わっておりました。いよいよ席に着き土俵入りを見学。色鮮やかな化粧廻しを締めて土俵を一周する力士たちの姿に歓声あげながら、強豪力士の熱戦を二時間ほど鑑賞しました。Netflix で相撲を題材にした「Sanctuary」といドラマが放映開始されたタイミングでもあり、トレック参加者の多くは相撲観戦を心待ちにしていたようです。また、相撲のことを良く知らなかった参加者も外国人力士の戦いに驚き楽しんでいました。

- チームラボプラネッツ、歌舞伎座ギャラリー、松竹本社訪問

13 名のトレッカーと幹事 2 名で豊洲のチームラボプラネッツ、銀座の歌舞伎座ギャラリーと松竹本社を訪問しました。ランチでは焼き鳥や釜めし、つけ麺を堪能しました。その後、チームラボプラネッツでは裸足になって身体ごと巨大作品に没入する非常にユニークな新しいアートの楽しみ方を経験することができました。参加学生は「芸術と技術が融合した未来的で素晴らしい体験だった」等とこれまでに無い経験に感動していました。歌舞伎座ギャラリーと松竹本社訪問では、松竹の CFO 岡崎哲也様にご協力いただき、ギャラリーツアーと一時間ほどプレゼンテーションをしていただきました。特に、プレゼンテーションでは、岡崎様自身が体験された歌舞伎座でのエピソードを伺え、また実演をしていただく機会もあり、生きた歌舞伎について

学ぶことができました。また、若年層獲得のために新しい演目に取り組まれているお話、後継者育成のための取組等、アメリカではなかなか聞く機会のない歌舞伎ビジネスについても知ることができ、学生たちは興味津々の様子でした。

- 豊洲市場競り見学

豊洲市場でのマグロの競り見学は 10 名で訪問しました。早朝にも関わらず、キャンセル待ちを狙って起床している人もいて、大変人気の高いオプショナルツアーとなりました。寿司や刺身は、十分認知されていますが、競りにかけられる生鮮マグロ、冷凍マグロの種類の多さ（クロマグロ、ミナミマグロ、メバチマグロ、キハダマグロ等）、本数や値段等等を知っている学生はほとんどいません。実際に訪問し、豊洲市場が水産物や青果物を取扱う日本最大の市場として首都圏全体の食生活を支えていることを実感してもらえたようでした。競り見学後は、水産仲卸売場棟にあるお寿司屋さんにて朝食を楽しみました。

5/26（金）- Day 8@東京

最終日は DNX Ventures 様の東京オフィス（Sproud 品川インターシティ）を会場としてお借りし、アルムナイの方々、スポンサー企業の方々をお招きして、カンファレンスイベントを行いました。参加学生の興味が高い 4 つのテーマ(詳細は報告書冒頭の全体スケジュールご参照ください)について、パネルディスカッションを実施致し、その後参加者同士の懇親会を行いました。パネルディスカッションはいずれもパネリストの方との間で活発な意見交換が行われ、大いに盛り上がりました。近年、HBS のケースで描かれる日本は、デフレの長期化、スタートアップ企業輩出等の例に見られる、進まない経済の構造改革、他国と比べた際の DX の遅れ、また女性の社会参画の遅れ等、暗い側面に焦点を置かれがちですが、パネルディスカッションではこれらの課題に関して、第一線で活躍されている方々よりお話を伺い、「停滞」ではなく未来に向け「前進」している日

本の姿を伝えられることができたと思います。「日本をもっと近くに感じることができた」と参加した学生からも声が上がりました。ご参加頂いたスピーカーの皆様、お忙しい中足を運んで頂いたスポンサー・アルムナイの皆様には改めて御礼申し上げます。

【参加者からの Feedback（抜粋）】

“Japan trek was organized perfectly: we were able to understand the culture and the history of this country all in the most fun way. I was especially impressed with the events that the organizers had planned and its smooth logistics. Several of my favorite memories are visiting Kyoto, Hiroshima, and the HBS alumni event on the last day. For Kyoto, we were able to immerse in the rich history and culture of this beautiful country. In Hiroshima, I found the message conveyed by the survivors very powerful. In the HBS alumni event, I was surprised that half of the guest speakers were women, each of them so successful and driven to change the country for the better. It was such an inspiring time. Japan trek is hands down the best HBS trek I have been on, and I look forward to coming back here on my next visit to the country already.

“Due to the structure of HBS classes, our knowledge of Japan is heavily skewed towards difficulties and problems that the country faces; what’s not working so well in Japan. In this trek we were able to see many sides of Japan that the rest of the world should learn from. I was especially impressed by the guest speakers at our final panel discussion event. They were able to present how businessmen and politicians in Japan are trying to steer the country towards a brighter future, which was very encouraging indeed.”

“I enjoyed every moment of the trek. As an experiential learner, I truly appreciated activities such as tea ceremony experience in Nara. I felt I learned a hundred times more than just reading about things in books. Some experiences were also shocking, such as listening to 2nd generation A-bomb survivors, or looking at horrifying accounts of damages done by A-bomb at Peace Memorial Museum in Hiroshima. As painful as it was to go through all of the artifacts and to come to terms with the fact that my country had caused such a devastation of civilian lives during WWII, it made me understand better Japan’s position in the international arena, especially its stance towards national security. “

以上